



# Web Fairy

# 第120号 Paradise

## 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第100回 WFP 作品展3作(解答延長)
- ・ 第102回 WFP 作品展(再掲)

## 結果発表

- ・ 第101回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #55

## 読み物

- ・ 593の合法手がある局面(Pontamon)
- ・ お便り(飯山修)
- ・ 安南最長手順作品(募集中)



2018/6

## はじめに

---



### ワールドカップ

オリンピックと同じで4年に1回開催されるサッカーワールドカップ。日頃 Jリーグでもサンフレッチェを応援はしているが試合を見たりすることもなく、新聞で勝った負けたと騒ぐだけですが、ことワールドカップの日本代表の試合となると見て応援してしまうのは何故なのでしょう。にわかサッカーファンが増えるという時期ですね。

この原稿を書いているのは20日ですが、前日の19日にコロンビア戦が行われ、2-1で勝利という新聞では奇跡とか番狂わせと言われるほどの大盛り上がり状態です。開始3分でまさかのレッドカードで1人退場でのハンデ戦となりましたが、勝ててよかったです。これで引分けや負けでもしたらお先真っ暗だったでしょうね。残りセネガル、ポーランドは共に強豪ですが、今の勢いならいけそうな気がします。どうか。声を上げて応援したいと思います。ところで詰キストでサッカープレーヤーっていおるんでしょうか？ちょっと気になります。

さて今月号で WFP10 周年となります。ぼちぼちやってきた感じでしたがもう10年経ったんですね。まあ出来る所までは走りたいと思いますので、色々な面でご協力、ご参加をお願い致します。

10周年ということではとくに催しをしていませんが、安南詰の最長手数作へのチャレンジ企画を開催中です。私も挑戦していますがなかなか感覚がフィットしなくて苦戦しています。是非皆さんもチャレンジして頂きあっと驚く手数で10周年を盛り上げて欲しいと思います。

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第120号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

協力いただいている方々の HP アドレス

\*ご協力感謝します

### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

### 占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

## 第102回WFP作品展(再掲) 担当：神無七郎

今月のWFP作品展の新規出題はお休みです。本稿では第102回WFP作品展の出題稿を再度掲載します。

### 〔第102回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第102回の出題は14題。内訳はPontamon氏2題、占魚亭氏3題、神無太郎氏3題、たくぼん氏1題、青木裕一氏2題、変寝夢氏3題です。作稿の都合上、作品は投稿順に並んでいません。並び順と難易度は関係ありません。

**102-1**及び**102-2**はPontamon氏の推理将棋。当初は別の推理将棋の予定でしたが、解答募集期間の長い今回向けにちょっと難解な作に差し替えとなりました。(余計なことをするなという解答者の声が聞こえそうですが…)

文中に「飛頭」「飛尻」という聞き慣れない言葉が出てきますが、意味は分かると思います。例えば先手28飛を基準にすると、27が「飛頭」、29が「飛尻」です。

**102-3**及び**102-4**は占魚亭氏のImitator作品。共に受先形式なので、受方の初手が重要です。形はそっくりですが、手順に関連性がないので、ツインとはしませんでした。

**102-5**も占魚亭氏のImitator作品ですが、この作にはAntiAndernachという要素が加わっています。AntiAndernachは駒を取らない盤上の移動で所属が変わってしまうルールのため、王手すら掛けるのが難しいルールです。本局では香の王手に合駒をして、それを取るしか王手が続かないので、冒頭3手のパターンは絞られます。果たして合駒は何で、どんな詰上りを目指すのでしょうか？

**102-6**～**102-8**は神無太郎氏の中立駒作品。例によって標準の駒がすべて中立駒になっている設定なので、合駒も中立駒ということですね。元々は「氾濫48」向けに作られた作なので、古典詰将棋との関連付けがあります。ヒントの代わりにその対応を示しましょう。

**102-6**：将棋大綱 86番

**102-7**：象戯造物 31番

**102-8**：将棋図巧 49番、将棋玉図 5番

**102-9**はたくぼん氏のツイン。図が同じでルールだけが異なる組局です。これも「氾濫48」

向けの投稿をこちらに回して貰ったものです。元ネタはずばり将棋図巧 98番。易しいとは思いますが、どちらも最善詰なので、変化をきちんと読んでください。

**102-10**及び**102-11**は青木裕一氏の作品。

**102-10**はレトロ協力詰めですが、「実戦初形から到達可能な局面であること」という条件が付いています。直接この条件が適用されるのは逆算した局面ですが、逆算手順も詰手順も合法手なので、結局は全局面にこの条件は適用されます。なお、本作品展では「実戦初形から到達可能な局面であること」という条件は暗黙には仮定しません。必要な場合は必ず明示して出題します。

**102-11**は透明駒を使った作品。透明駒の枚数は何と受方36枚！ 攻方の駒は4枚ですから、受方玉も透明駒になっているわけですね。まさに「捉えどころがない」構図ですが、受方の協力ですぐ上手く可能性を絞り込んでください。

**102-12**～**102-14**は変寝夢氏の作品。

**102-12**は中立駒を使ったレトロ協力詰です。**102-10**と異なり実戦初形への逆算可能性は要求されません(というより、不可能です)。

**102-13**は中立駒を使ったリパブリカン協力自玉詰。ここ最近の変寝夢氏の作品の傾向から詰上りにヤマを張ると良いと思います。

**102-14**はSiren(汝と表記)というWFP作品展初登場のフェアリーチェスの駒を使った作品です。Sirenは日本では「セイレーン」と呼ばれることが多く、筆者はドビュッシーの「夜想曲」の3曲目「シレーヌ(Sirènes)」を思い出します。まあ、呼び方はともかくとして、駒の性質を簡単に説明しましょう。

Sirenは駒を取る時と取らない時の動きが異なるのが特徴です。これはPawnと同じ性質ですが、動きはかなり派手で、駒を取らないときはQueen、駒を取るときはLocustの動きをします。Sirenの解図経験がない方(ほとんどの人がそうだと思います)は、盤上に配置されたSirenを持駒のLocustにして考えると、有力なヒントが得られると思います。

Locustの解図も未経験の方はWFP作品展の過去問を参考にしてください。**48-1**、**59-1**、**60-7**、**73-9**、**74-7**、**78-6**、**79-6**でLocustが登場しています。特に最初の**48-1**は一番参考になるでしょう。SirenがLocustの動きをする時の解答表記もこの時の解答表記の流儀で行う予定です。

す。

### 解答要項

第 102 回分解答締切:2018 年 8 月 15 日(水)  
宛先 : [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)  
解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

### WFP 作品展 : 今後の予定

7 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、6 月号の新規出題はお休みさせていただきます。また、今月は第 100 回のうち解答者ゼロとなった作の再出題があり、変則的なスケジュールとなっています。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	6 月	7 月	8 月
第100回(再)	再掲	結果	
第 102 回	再掲	再掲	結果
第 103 回		出題	再掲
第 104 回			出題



### ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

#### 【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

#### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

#### 【受先】

受方から指し始める。

#### 【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

#### 【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動(駒を取る及び持駒を打つ以外の着手)を行うと、着手後に相手の駒となる(玉を除く)。

(補足)

- 1) 駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2) 駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3) 駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8 段目への桂の不成、9 段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)

#### 【中立駒】(「 $\square$ 」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩



を打つことはできない。

- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。  
7) 中立駒でも **自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

**【協力自玉詰】**

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

**【強欲】**

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

**【最善詰】**

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

(補足)

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数の余詰は不問。

**【安南】**

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

**【レトロ -m+n 手】**

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数の逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

**【透明駒】**

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳しいルール説明は WFP83 号「透明駒の紹介」を参照のこと。

**【リパブリカン】**

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、

最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。

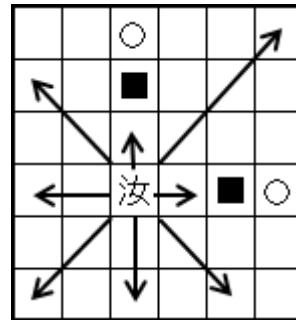
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

**【Siren】(汝)**

フェアリーチェスの Siren (蝗)。

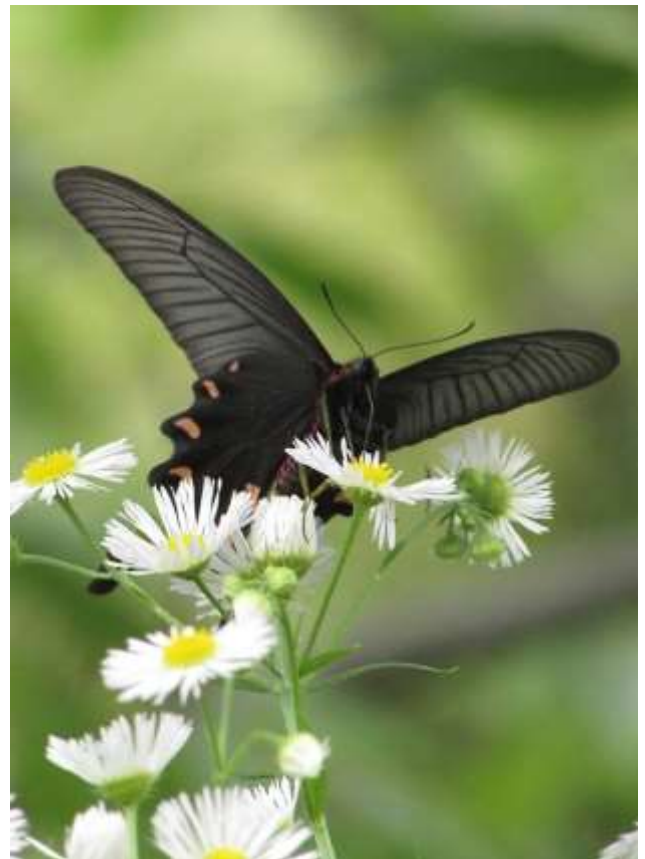
駒を取らないときは Queen の動き。

駒を取るときは Locust の動き (Queen 利きの方向にある敵駒を跳び越えその 1 つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。

■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)



<第 102 回>解答締切:2018 年 8 月 15 日(水)

■ 102-1 Pontamon 氏作

推理将棋『飛頭と飛尻への着手(その1)』

「さっきの、不成なしで 12 手目の初の角成で詰んだ対局だけど、相手の飛頭への着手があったね」  
 「それと先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だったね」

[条件]

- 1) 不成なしで 12 手目の初の角成で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への着手があった

■ 102-2 Pontamon 氏作

推理将棋『飛頭と飛尻への着手(その2)』

「さっきの、駒成なしで 12 手目の両王手で詰んだ対局だけど、相手の飛頭への駒打ちがあったね」  
 「それと先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だったね」

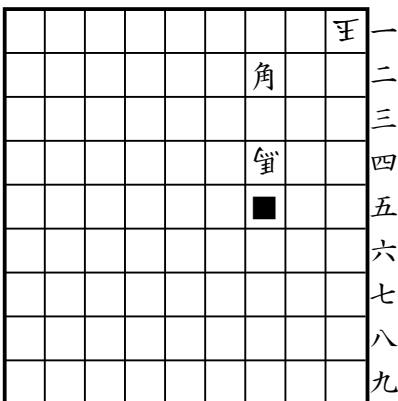
[条件]

- 1) 駒成なしで 12 手目の両王手で詰んだ
- 2) 先手も後手も、自分の飛尻への着手は相手の飛の着手の直後だった
- 3) 相手の飛頭への駒打ちがあった

■ 102-3 占魚亭氏作

協力詰 4手 ※受先

9 8 7 6 5 4 3 2 1

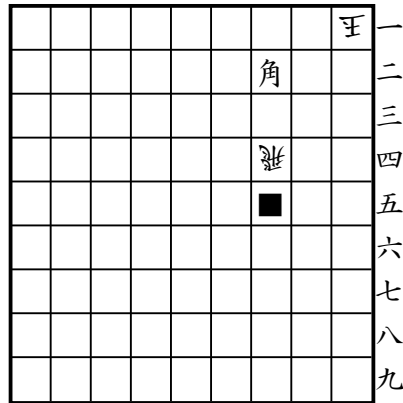


持駒 飛  
 ※■:Imitator

■ 102-4 占魚亭氏作

協力詰 4手 ※受先

9 8 7 6 5 4 3 2 1

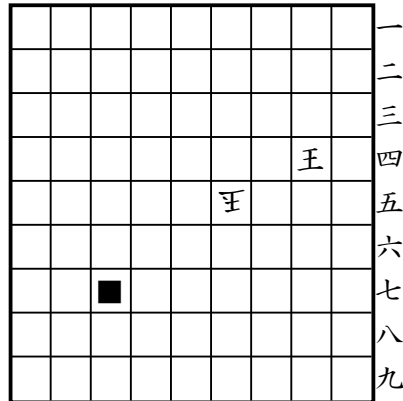


持駒 飛  
 ※■:Imitator

■ 102-5 占魚亭氏作

AntiAndernach協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

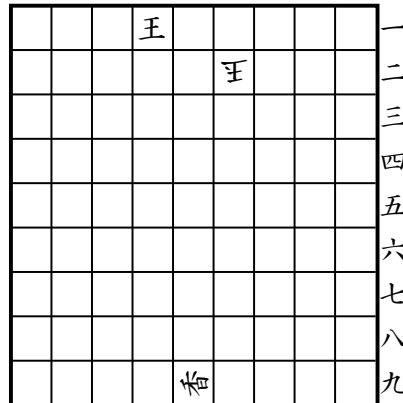


持駒 香  
 ※■:Imitator

■ 102-6 神無太郎氏作

協力詰 7手

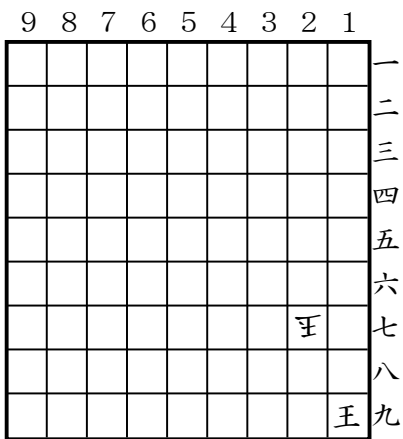
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n桂  
 ※双方の玉以外はすべて中立駒

■ 102-7 神無太郎氏作

協力自玉詰 8手

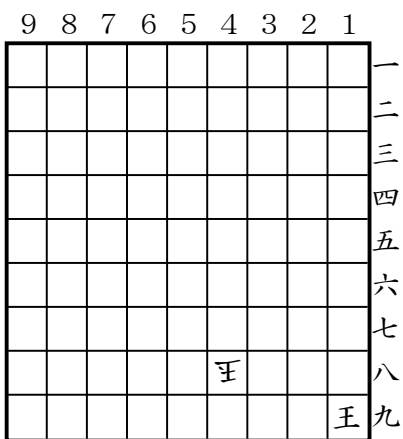


持駒 n香

※双方の玉以外はすべて中立駒

■ 102-8 神無太郎氏作

協力自玉詰 10手

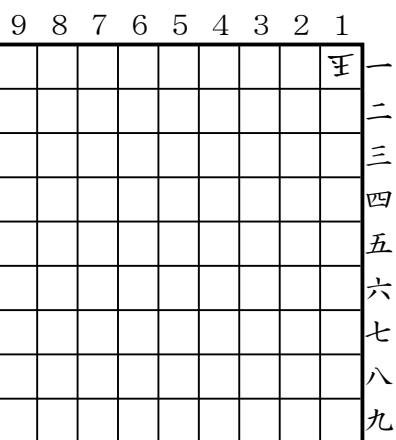


持駒 n香2

※双方の玉以外はすべて中立駒

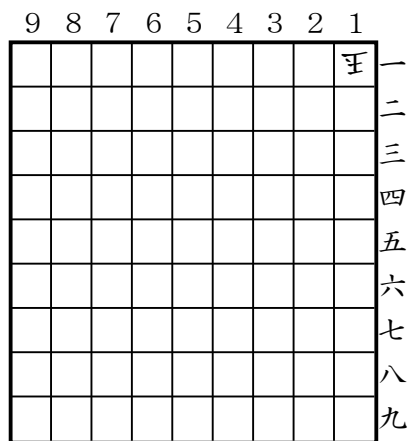
■ 102-9 たくぼん氏作

a) 強欲最善詰 9手



持駒 飛金桂2香

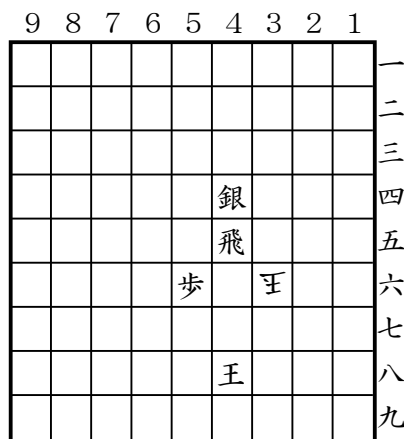
b) 安南最善詰 9手



持駒 飛金桂2香

■ 102-10 青木裕一氏作

レトロ協力詰 -2+1手

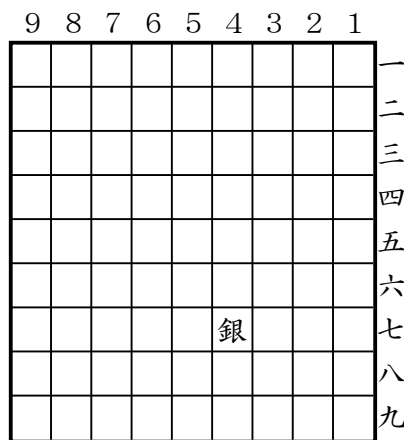


持駒 なし

※実戦初形から到達可能であること

■ 102-11 青木裕一氏作

協力詰 7手



持駒 飛銀

※透明駒:攻方0枚、受方36枚

■ 102-12 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	帝	一
									二
					糸				三
					馬				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※44馬は中立駒

■ 102-13 変寝夢氏作

リパブリカン協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
					王				五
									六
									七
									八
								帝	九

攻方持駒 n桂

受方持駒 なし

※29飛及び持駒桂は中立駒

■ 102-14 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
							王		五
									六
									七
									八
					汝				九

持駒 なし

※汝:Siren

以上



# 第 100 回 WFP 作品展(一人一作展)(再出題) 担当：神無七郎

本稿は第 100 回 WFP 作品展（一人一作展）の再出題稿です。  
 正解者ゼロとなった 3 作（100-1、100-8、100-12）について、再度解答を募集します。  
 解答締切も改めて 7 月 15 日に設定しましたので、宜しく解答をお寄せ願います。  
**※追記：100-8 に 59 手の早詰がありました。**  
**解答募集は継続し、作意手数以内の解答はすべて正解とします。**

<第 100 回(再)> 解答締切：2018 年 7 月 15 日（日）

## ■ 100-1 神無太郎氏作

多玉禁欲成禁協力詰 m 手

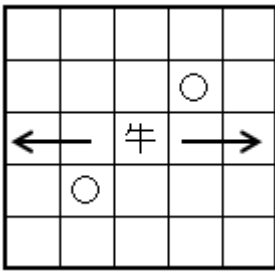
攻方持駒: Bn  
 受方持駒: B∞ E∞ F∞ G∞

### ルール説明

- ・協力詰：先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。
- ・禁欲：駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。
- ・成禁：詰手順中に駒を成る手があってはいけない。
- ・多玉：複数の玉を使用する。どの玉に対しても王手放置は禁手。
- ・●：●は不透過・不可侵の領域を表す。取ることも通過することもできない。駒というより、マスの性質。
- ・歩 B (B)、歩 E (E)、歩 F (F)、歩 G (G)：B、E、F、G は異種の歩。いずれも「歩」と同じ性能で、同じ筋に二つ以上の同種の駒が存在できず、打歩詰の禁則も適用される。
- ・駒 n：持駒の数を（特定の数ではなく）変数 n で指定する。  
 これにともなって手数指定も n の関数として表現される。  
 n が無限大のときにはその駒を無制限に使えることを表す。

- ・横牛（牛）：大局将棋の「横牛」。

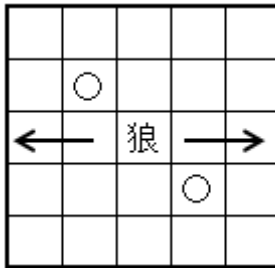
横には自由に走ることができ、斜め右上と斜め左下に一つ動ける。左右非対称の利きが特徴。



(○の地点及び左右へ横牛が動ける。)

- ・横狼（狼）：大局将棋の「横狼」。

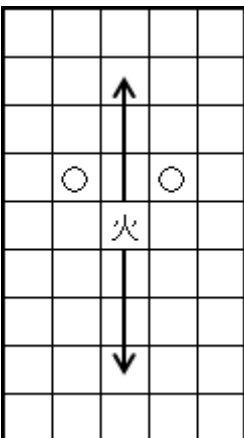
横には自由に走ることができ、斜め左上と斜め右下に一つ動ける。「横牛」とは左右逆の利き。



(○の地点及び左右へ横狼が動ける。)

- ・火将（火）：大局将棋の「火将」。

前後に三つ、斜め前に一つ動ける。駒を飛び越えることはできない。



(○の地点及び前後へ3つまで火将が動ける。)

### [100-1 への補足説明]

神無太郎氏の今回の作品は、第 62 回 WFP 作品展で特別出題された sogal 氏の作品、及び WFP74 号に掲載された sogal 氏の「詰将棋コンピュータについての補足」に関する研究をもとに作られたものです。その研究結果は WFP114 号の『「詰将棋コンピュータ」を検証する (I)』で報告されており、元論文の誤記・非限定の指摘、実際に簡単な命令を実行させたときの手数（一つ値を移すだけで約 1 兆手！）等が報告されており、とても興味深いものです。

この作品はその研究の副産物として生まれたもので、sogal 氏の提唱するプラットフォームに従って、「ある機構」を実現しています。その機構が何かを見抜いてください。

手数は具体的な数値ではなく、「m手」と表されていますが、このmはnの関数になっています。可能であれば一般的なmとnの関係を示す解答が良いのですが、具体的な数で解答されても構いません。その場合、「nが3のとき」及び「nが4のとき」の手順と手数をお答えください。手順は分かる範囲で略記してください。

なお、詰めるべき玉は初形で (50,14) 地点にいます。問題図が見にくい場合、画像ファイルを <http://k7ro.sakura.ne.jp/wfp/wfp100-1.gif> から取得してください。

〔追加ヒント〕

例えばnが3のとき（歩Bを3枚持っているとき）、以下のように進めることを考えます。

5214牛 5114F 同牛 5113玉 5214牛 5213玉 5113牛 5212玉 5213B 5311玉  
5309飛 5412玉 5409飛 5513玉 5509飛 5414玉 5409飛 5515玉 5509飛 5416玉  
5409飛 5517玉 5509飛 5418玉 5409飛 5519玉 5509飛 5420玉 5409飛 5521玉  
5509飛 5422玉 5409飛 5523玉 5509飛 5424玉 5409飛 5525玉 5509飛 5626玉  
5631飛 5527玉 5531飛 5628玉 5631飛 5529玉 5531飛 5430玉 5431飛 5330玉  
5331飛 5230玉 5231飛 5130玉 5131飛 5029玉 5031飛 4928玉 4728狼 4828F  
同狼 4827玉 4728狼 4727玉 4827狼 4626玉 …

一見、それらしく進んでいるように見えますが、61手目の「同狼」は指せません。

なぜなら、この時点で持駒には「歩B」が2枚あり、「禁欲」の条件により、「4929B」と打つ手が優先されます。49筋は「歩B」を打っても「二歩」にならないことをご確認ください。

そして「4929B」には「同玉」とするしかなく、結果は不詰になります。

ではどうすれば良かったのでしょうか？

少し手順を遡って、58手目「4928玉」のところで「5128玉」としてみましよう。以下、

5328牛、5228G、同牛、5227玉、5328牛、5327玉、5227牛、5326玉、5327B、5425玉、

とすれば、歩Bを1枚減らすことができます。（歩Bは歩Gに変わります。）

更にもう一周して歩Bを持駒から無くせば、「4929B」の着手がなくなるので、今度こそ「4928玉」から「4626玉」に抜ける手順を実現することができます。

このように、持っている歩の種類（B～G）によって、どのコースを通れるかが変わります。枚数や種類に注意しながら手順を進めると、自然に答えにたどり着けると思います。

また、nの値によっては「不詰」が正解になることもあります。

その場合は、「不詰」（王手がない、または同一局面へ戻る）に至る最長手順をお答えください。（出題時『「nが3のとき」及び「nが4のとき」の手順と手数をお答えください』と書きましたが、実は一方は詰み、他方は詰みません。そして、詰む・詰まないには法則性があります。）



■ 100-8 北村太路氏作 (早詰)  
ボカスカ協力詰 85手

			●				●	▲	一
	●				●		●		二
▲	●	●	●	●	●				三
●	●	●	王	●	●	●	●	●	四
				●	●	銀			五
	●	▲					●		六
	●	●	●	●	●	●	●		七
	●				●		●	●	八
		●	●			●		王	九

持駒 なし  
※銀、全 (成銀) は中立駒  
●:石 (着手不可、不透過)

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【ボカスカ】

盤上にある味方の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

(補足)

- 1) 成駒と生駒は別種とみなす
- 2) 動かさない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3) 成・不成は1枚毎に自由。持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ。
- 4) 歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。  
飛び越すことは可能。

3	2	1	
			一
●	●	●	二
角	桂	香	三

例えば左図で、  
12香や11香成は不可。  
22角や11角は不可。  
11桂成や31桂成は可。

【中立駒】(「▲」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横にnを付加して表記。  
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)

- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

〔100-8への補足説明〕

中立駒+ボカスカルールの作品というと同じ北村氏の 84-7 が思い出されます。ボカスカルールは駒が一斉に動く面白さを強調した作品が多いですが、思い通りに動いてくれないもどかしさを強調した構成は新鮮でした。

84-7 は手数が33手だったのですが、今回は85手。同時にいくつもの駒が動くので、手数以上にたくさんの手を指した感覚になるでしょう。

(追記:本局には59手の早詰がありました。解答募集は継続しますので、作意手数85手以内の解をお寄せください。)

なお、ボカスカの指し手の表記ですが、駒の種類と方向で表す従来の表記法は、文字数削減に重きを置き過ぎて、判りにくいと思います。ここでは、各駒の動きを( )で括って表す方法を推奨します。

例えば、初手に全が縦に真っ直ぐ動くなら、(75全、92全)のように表すのが一例です。

この時11全は動けないのですが、敢えてそれも入れて、(11全、75全、92全)と表した方が誤りを防ぐには良いでしょう。





■ 100-12 はなさかしろう氏作  
協力自玉スタイルメイト 24手

			▲							一
										二
					▲					三
										四
					▽		▽			五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 ▲8歩3

受方持駒 △12

※▲:攻方覆面駒、△:受方覆面駒

**ルール説明**

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっているが合法手のない状態）にする。

【覆面駒】

種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

(補足)

- ・透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- ・手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- ・初形が合法局面であることが仮定される。つまり、駒の枚数が正しいこと、行き所のない駒や二歩がないこと、（受先形式でない場合）受方玉に王手が掛かっていないことを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。

【作者のコメント】

いつも楽しく拝読しております。

せっかくの機会ですので、第100回 WFP 作品展「一人一作展」に投稿します。

よろしくお願いいたします。

【100-12 への補足説明】

はなさかしろう氏は WFP114 号の「ちょっと早い 2018 年年賀詰作品展」で本局と同じく覆面駒を使った協力自玉スタイルメイトを発表されています。この時は惜しくも余詰があったので、捲土重来を期しての登場となります。

今回は受方持駒が（覆面駒なので）種類は分かりませんが、12 枚と指定されています。この 12 枚は全部使うとは限りません。ただ、覆面駒の推定のための重要な情報となりそうですね。



以上



# 第101回WFP作品展結果

担当：神無七郎

第101回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全14題。解答者数は11名。全題正解者はいませんでした。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第101回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
たくぼん	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
一乗谷酔象	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
占魚亭	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	8
テイエムガンバ	-	-	-	○	-	○	-	○	○	-	-	○	○	○	7
変寝夢	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	7
はなさかしろう	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	7
林石	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	3
井上順一	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	3
詰ガエル	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	2
あっちゃん	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
江市滋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1

今回は極端な難解作はなく、林石氏とあっちゃん氏が初登場。恒例の「作者以外の正解者なし」も回避できました。でも問題数が多かったため、全問正解者は出ませんでした。本作品展に登場する作品は、ルールも作品の傾向もバラバラなので、自分の好きな分野や面白そうな作品だけでも解答をお寄せください。

### ■ 101-1 神無太郎氏作（正解4名）

協力自玉詰6手


9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
					王					六
										七
										八
										九

持駒 n角

※玉以外はすべて中立駒

#### 【ルール】

- 協力自玉詰  
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。
- 中立駒（「」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

24n 角 35n 飛 33n 飛成 35n 飛 34n 飛 24n 龍  
まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						飛	龍	王	四
									五
				王					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

今回の神無太郎氏の3作は、すべて玉以外の駒が中立駒というルール設定です。中立駒の王手にはその中立駒を動かす受けがあることが多いので、それを防ぐ対策を講じねばなりません。

本局で使われている対策は「王手している中立駒を逃しても別の駒で王手が維持される」というものです。本局の詰上りでは直接王手しているのが24n龍。24n龍を動かしたときに王手を維持するバックアップの王手駒が34n飛となっています。これは王手の「多重化」であり、間接的な両王手に近い感覚ですね。

本局を見た方は、王手駒とバックアップの王手駒の組み合わせを色々変えて、面白い組み合わせがないか試してください。

この種の詰上りで気をつけないといけないのは、中立駒で中立駒を取る手ですが、24n龍で34n飛を取る手はn龍自身によって王手が続くため、やはり受けになりません。でも、中立駒で中立駒を取る手で逃れる筋を使えば、何か面白い作が創れるかもしれませんね。

本局はこの詰型を作るため、角の限定打、2枚の飛合と限定開き王手が登場します。手順に趣向性があるだけでなく、すべての手順が一つの目的によって限定されるので、解いて気持ちよい作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん

詰め上がりを予想してから考えた。  
初手13n角にも誘われそう。

たくぼんさん

双裸玉で2手目以降飛(龍)のみの着手とはすごい。

占魚亭さん

同地点にn飛合。いいですね。

一乗谷酔象さん

飛龍を横に並べて解決。

■ 101-2 神無太郎氏作 (正解3名)

協力白玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
									二
				王					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 n角

※玉以外はすべて中立駒

【解答】

14n 角 23n 飛 同 n 角成 34n 馬  
61n 飛 51n 香 まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛	香	王				一
									二
				王					三
							馬		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

最終2手が強烈。普通の協力自玉詰だと合駒は1回動かすケースが多いのですが、本局では合駒したその時点で自玉が詰んでいます。詰めにくいはずの中立駒でなぜこんなことが起こるのでしょうか？

本局で用いられている方法は「そもそも王手を解除する動かし方がない」というもの。最終手の香合がそれです。

香は前にしか進めません。攻方にとって一段目の香は行き所のない駒です。しかし受方にとっては動かせる駒です。攻方から見ると、もはや「中立」どころか完全に受方の駒なのです。

しかも、この香は飛で取ることも馬で合駒することもできません。どちらも自玉に王手する反則になるのです。「中立って一体何なんだ！」という自玉の声が聞こえそうですね。

本局のハイライトはこの収束2手で、最初の4手は前準備。飛の入手と馬の好位置への移動が目的です。馬の移動先は34に限定されています。33n馬だと最終手に対し51n馬で王手を防ぐことができるので不詰です。

なお、本局の初形で41玉を31玉とすれば2手伸ばすことができます(13n角 22n飛 同n角成 41玉 23n馬以下)。が、この逆算は人によって好みが分かれそうですね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

左から角を打ってしまいました。  
なるほど、協力自玉ではn香が使い勝手が良いのですね(余詰が怖そうだけど)。

たくぼんさん

詰上りの想定がかなり困難でした。

占魚亭さん

これは詰み形がひと目で見えました。

一乗谷酔象さん

単に合駒を奪う手が盲点になった。

☆他の解答者が盲点に苦しむ中、占魚亭さんはあっさりと詰上りを看破。既に中立駒はマスター済み？

■ 101-3 神無太郎氏作 (正解2名)

協力詰 15手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							銀		六
							歩		七
									八
					王	銀	桂	香	九

持駒 なし

※玉以外はすべて中立駒

【ルール】

•協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

【解答】

38n 銀 48 玉 37n 銀 39 玉 48n 銀 28 玉  
37n 銀 26n 銀成 29n 銀 19 玉 28n 銀 18 玉  
19n 銀 17 玉 29n 桂 まで 15 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							金		六
							歩	王	七
									八
							桂	銀	九

持駒 なし

【解説】

本局は前2局と趣がガラリと変わります。

協力自玉詰から協力詰になったことも大きいですが、大駒主体の離れ技ではなく、小駒主体の繊細な手順を丁寧に読む作品に変わったからです。

中立駒で詰める原理自体は前局と同じです。九段目の桂は、攻方は動かさず、受方は動かさず。「そもそも王手を解除する動かし方がない」という状況を作るわけです。

目標は比較的分かりやすいのですが、問題はそれに至る手順。26銀が48に行ってから成って戻るのが重要なポイントです。

4手目すぐ26n銀成とする筋に誘われますが、以下「49n銀 39玉 48n銀 28玉 37n銀 38n銀生…」で作意より2手余分に掛かります。作意と違って玉が48のままなので、すぐに桂を取ることができないのです。

成銀を作る目的は2つ。一つは17への退路を残しておくこと。もう一つは27歩を支えることです。

ここまで26n銀の話ばかりにしていますが、29n桂にも注目してください。この桂は駒台を經由して29に復活しています。中立駒は中立駒を取れるので、盤上から消えて元の位置へ復活するのは容易です。そんな「復活」を大々的なテーマにした作品も見てみたいですね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

銀の動きが狙いなのかな。  
中立駒の接近戦はややこしい。

たくぼんさん

これも実戦型というのでしょうか？  
序が普通の手順で裏をかかれた感じです。

占魚亭さん

n銀成らせですね。上手い。



■ 101-4 尾形充氏作（正解5名）

打歩協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				龍					一
									二
									三
					歩				四
									五
									六
						金	歩		七
							王		八
					王	桂	香		九

持駒 角

※本局の打歩は「完全打歩」

【ルール】

• 打歩

打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは先後双方に再帰的に適用される（完全打歩）。

【解答】

59龍 49角 93角 57歩 同角成 48飛  
38金 同玉 39歩 まで 9手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						歩			四
									五
									六
					馬			歩	七
						飛	王	王	八
					龍	馬	歩	桂	九

持駒 なし

【作者のコメント】

歩の入手から枰形成まで、最短のまとめが取り柄でしょうか。

【解説】

「完全打歩」の設定を利用した法則問題。

最近では WFP100-5（小林看空氏作、背面打歩協力自玉詰 10 手）で「完全打歩」が登場しています。このときは「完全打歩」の条件を満たしているかどうかの判定は 1 回で済みました。しかし、本局は更に深く読まないと「完全打歩」の判定ができません。

詰上り図から、その判定手続きをトレースしましょう。

最終手 39 歩に対し、「同玉」とする手が見えますね。これは自玉への逆王手になっています。

これに対する受けは「48 馬」か「48 龍」しかありません。樹形図で表すとこうなります。

```

9. 39 歩：王手
└10. 同玉：王手
  └11. 48 馬：王手
    └┐12. 詰
      └11. 48 龍：王手
        └12. 詰
  
```

11 手目「48 馬」と「48 龍」は、どちらも「打歩以外で詰める反則」になっています。つまり禁手で指せません。これを樹形図に反映します。

```

9. 39 歩：王手
└10. 同玉：王手
  └11. 48 馬：詰（禁手）
    └11. 48 龍：詰（禁手）
  
```

これで攻方に合法手はなくなりました。王手に対し合法手のない状態、つまり「詰」です。

```

9. 39 歩：王手
└10. 同玉：王手
  └11. 詰
  
```

すると 10 手目「同玉」は「打歩以外で詰める反則」になります。

```

9. 39 歩：王手
└10. 同玉：詰（禁手）
  
```

これで受方に合法手はなくなりました。王手に対し合法手のない状態、つまり「詰」です。

```

9. 39 歩打：王手
└10. 詰
  
```

元の局面に戻って 39 歩の時点で詰んでいることになるわけですが、9 手目は「打歩」なので今度は反則ではありません。

```

9. 39 歩打：詰（合法手）
  
```

このように本局の最終手が「打歩詰」になっていることを確かめるには、実質的に 2 手余分に読まねばなりません。

普通詰将棋では「無駄合」の判定に再帰的判定が要求されるので、作意より深い手数を読みが必要なことがあります。が、「完全打歩」でも同様の手続きが必要なわけです。

ここまで打歩詰の話に終始してきましたが、そのための準備も重要です。

「打歩協力詰」は詰に厳しい条件を付けることにより作意を成立させるルールであり、「協力自玉詰」と同様の手順が実現可能です。「完全打歩」ではその性質がより顕著になり、自玉を包囲する手順は協力自玉詰と錯覚するほどです。本局の 2 手目の角合や、6 手目飛合は正に協力自玉詰感覚の合駒ですね。

試しに 2 手目角合の代わりに銀合にしてみましょう。すると 27 へ受方の利きがないため、完全打歩判定時の 11 手目で 27 王の受けが生じます。これは失敗ですね。

```

2. 49 銀
：
9. 39 歩：王手
└10. 同玉：王手
  └11. 48 馬：王手
    └┐12. 詰
      └11. 48 龍：王手
        └┐12. 詰
          └11. 27 王
        
```



もちろん本局は協力自玉詰ではないので、ちゃんと「打歩」で詰めることも考えねばなりません。2手目 93角と遠打して、57歩に同角「成」と成るようにするのが「打歩」らしい展開。自玉と受方玉を同時に包囲するのが「完全打歩」絡みの法則問題の定跡なのです。

良い機会ですので、「完全打歩」の再帰的判定についても一度考えてみましょう。

本作品展では盤の大きさや駒の枚数が無限の作品が何度か出題されてきました。本局は歩を打ってから4手先で打歩判定が終わりましたが、それで済まない作品が出てきたら、どうすれば良いでしょうか？ 数学の決定不能問題と同様、深さが有限で終わるかどうかが判定できない問題が出てきたら、打歩詰かどうかは決められません。実際にそんな作品が現れるかどうかは分かりませんが、今から無限の深淵に思いを馳せ、心の準備をしておく必要があります。

【短評】

テイエムガンバさん

9手目の39歩打が取れそうで取れない(同玉が完全打歩のルールにより禁手)。

たくぼんさん

最後48飛を取れるから違うなと勘違いして無駄な時間を掛けてしまった。  
ヒントをよく読んでおけばよかった。

占魚亭さん

4筋に壁を作る過程が巧みで上手い。

はなさかしろうさん

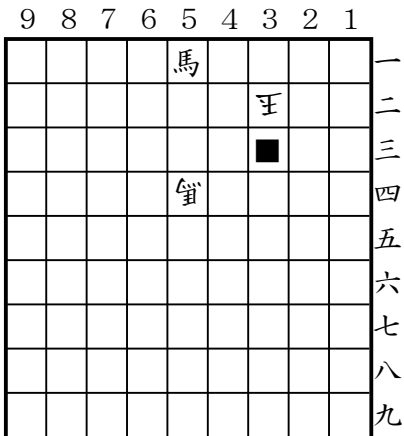
38玉-48飛の形で39歩、を念頭に4筋方面の仕上げ方をいろいろ試そうと、再帰的、再帰的…と駒を動かしていたら偶然詰んでくれました。なるほどで楽しかったです。

詰ガエルさん

2手目の限定合の味がいい。

■ 101-5 占魚亭氏作 (正解2名) ※実質1名

協力詰4手 ※受先



持駒 金  
※■:Imitator

【ルール】

•Imitator (■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

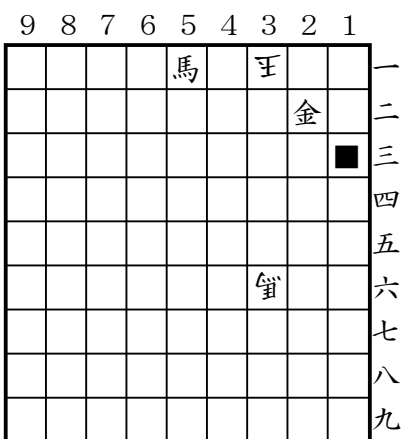
•受先

受方から指し始める。

【解答】

36馬[I15] 23金 31玉[I14] 22金[I13]  
まで4手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

受先の Imitator 使用作の 2 号局です（1 号局は封印中）。

Imitator を盤端に移動させるのが見えみえなので易しいと思いますが、玉移動や駒打ちの筋を追いかけると難問に見えるかもしれません。

### 【解説】

受先は自由に指せる初手が鍵になることが多いので、初手は大技を出したいところ。となれば、馬の大移動に惹かれるのは人情でしょう。

ところが実際に 98 馬[I77]としても後が続きません。この手で Imitator が七段目に来るので、更に 33 馬[I59]とするのが筋に見えますが、この後「31 玉[I58] 32 金」と進めても、57 に壁駒を打つ受けがあつて詰みません。玉が一段目にいるので、九段目の壁を利用する筋はあまり効果がないのです。

では考え方を変えて、51 馬・42 金や 41 馬・32 金の「両王手」や「両王手もどき」（Imitator があるせいで実は両王手になっていない）を目指すのはどうでしょうか？

実はこれも上手くいきません。馬の横からの王手を Imitator で一時的に無効化する形を作れないのです。

実を言うと作意はあつけにとられる程、基本的に淡泊なものです。

Imitator の手筋の代表的なものの一つに、Imitator を盤端に寄せる筋があります。九段目に Imitator を押し付ける手順は失敗しましたが、1 筋に押し付ける手順なら上手くいくのです。

作意のように初手 36 馬[I15]とすれば、玉にとっては 2 筋から右が壁になります。そのため、2 筋から王手を掛ければ玉はそれを取れません。逆に攻方にとってみれば、壁の向こうから一方的に攻撃できる絶好の形なのです。更に都合の良いことに、金で玉を 31 まで追うと、Imitator と金と玉が斜め一線に並び、壁駒を打つ受けがありません。これは「影挟」の手筋の一種です。

Imitator と受先、という組み合わせから派手な手筋を期待した方には肩透かしの手順だったかもしれませんが、本局は「盤端 Imitator」の有効性を示す典型例なのです。

### 【短評】

あっちゃんさん

ようやく正解（と思われる）に辿り着きました。51 の馬が動くものだと思い泥沼に嵌ってしまいました。見つけてしまえば「なんだ、そんなもんか」というのが正直な印象。解図時間は 3 時間以上でした。

不詰局面が気付きにくいのが Imitator 初心者の悩み。解決法は慣れなんでしょうね。本作、やさしい～ではちょっと難解過ぎますね。

☆あっちゃんさんは作者以外の唯一の正解者となりました。「やさしい(?) Imitator 作品展」での解図経験が活きたのだと思います。

とはいえ、他の解答者の方々は無解か誤解なので、やはり Imitator への適応は茨の道なのだと思います。

### 林石さん（※無解）

まさか単王手の形だったとは。

43 玉/詰方 33 金 42 馬の詰め上がりなどを予想していたので盲点です（特に 43 玉とかわすのが王手逃れでそれっぽいのではないかと...）。

### たくぼんさん（※誤解）

■を端にですね。

☆たくぼんさんは 98 馬[I77] 33 馬[I59] 31 玉[I58] 32 金 迄 4 手の解答。解説でも触れましたが、この筋は最終手に対し 57 に何か壁駒を打てば詰みません。

### ■ 101-6 Pontamon 氏作（正解 4 名）

#### 推理将棋「42 角打まで 11 手」

「42 角打の着手で詰めたって？」  
「4 手目は銀だったけど 11 手で仕留めたよ」

#### 【条件】

- 1) 11 手目の 42 角打で詰んだ
- 2) 4 手目は銀

#### 【ルール】

##### • 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76 歩 42 金 33 角生 32 銀 22 角生 33 金  
同角生 41 玉 52 金 31 玉 42 角打 まで 11 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	将	將	将			王	将	皇	
二		飛			金	角	將			
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

【作者のコメント】

「角打」の棋譜までの最短は8手。

▲76 歩、△34 歩、▲68 玉、△88 角不成、▲78 銀、△77 角不成、▲79 玉、△88 角打 など先手勝ちだと 22 角打までの9手があるが、どちらも角の打ち場所は取られる心配の無い桂頭。

11 手詰め作品も 12 手詰め作品も、場所的には金頭への角打ちなので、金の処理をどうするのがテーマになる。

飛車の横利きを防ぐことも目的にして、6筋まで金を移動させるのも一案だが、それだと初形で金が居た地点が空いてしまい、頭の丸い角ではカバーできない。

11 手詰め作では、41 の金を入手して、41 地点へ利かす 52 金が飛の横利きも防いでいる。

12 手詰め作では、49 の金をピンして無力化している。

【解説】

将棋の正式な棋譜表記は少し面倒なところがあります。特に同じ箇所複数の駒が行ける場合、ケースに応じて付加する語が異なり、きちんと覚えるのは大変です。とはいえ、標準駒数の範囲内では棋譜の表記法は一意に決まり、同じ動作で複数の表記があり得るといような「曖昧性」はありません。(ただし、非標準駒数は想定されていないので、フェアリーで飛を3

枚以上使ったりすると、今の表記法の範囲では表せないケースが出てきます。)

さて、本局と次局は、そんな棋譜表記が重要な役割を果たす問題です。

将棋の棋譜で「打」を付けるのは、単に駒を打ったときではありません。日本将棋連盟のサイトで、棋譜の表記方法の注意書きを見てみましょう。

※「棋譜の表記方法」(<https://www.shogi.or.jp/faq/kihuhyouki.html>) より

持駒を打った場合は「打」と記入

※「打」と記入するのはあくまでもその地点に盤上の駒を動かすこともできる場合のみです。それ以外の場合は、持駒を打つ場合も「打」はつけません。

というわけで「打」には持駒を打ったという情報の他に、同じ手番の同種の駒が打った駒と同じ場所に移動できたという情報も加わります。

また副次的な効果として、一方が成駒だと「打」が不要になるため「成る手はなかった」のような、推理将棋にありがちな無料な条件を付けずに済むという利点もあります。

今回の2作は、棋譜に付ける「打」という、たった一文字がもたらす豊かな情報を最大限利用しようという作品です。

更に今回の2作が野心的なのは、「角打」を最終手に設定したにも関わらず、桂頭への角打という平凡な詰筋を回避していることです。

条件の中で指定した角打の場所は「42」という玉飛金銀の4枚が利いている場所です。そのうち玉を除く3枚の利きを何とか無効化しないといけません。このため、11手という長丁場を限定できるという仕組みです。また、最終手が「角」という詰めるのに適さない駒であることも手順の限定に大いに役立っています。

残念ながら「最終手 42 角打」の1条件だけでは 11 手を完全に限定することはできず、「4 手目銀」という2つ目の条件が付いていますが、解答者は皆、飛金銀の処理に苦心しており、推理将棋として十分な成功を収めている作品です。

金を取って飛の利きを遮断するというのは、解けてから考えれば当然に思えますが、この重複感のある詰上りは詰棋人の本能に反しており、これを最初に想定する人はいないと思います。

【短評】

一乗谷酔象さん

第一感は 33 玉型だったが、角筋をかわす玉移動が困難。31 玉型は 41 を塞ぐ手段がなかなか見えなかった。

たくぼんさん

42 角打の詰上がりはなかなか思いつかなかった。

はなさかしろうさん

悩みました。  
42 角打というのが実に詰ましくい最終手。  
42 への金銀飛の利きと 42 角の頭や腹の隙とを処理しなければならず、11 手もあるのになかなか手が届きません。  
玉位置も 64 まで読む始末で、最後の最後、31 玉と 52 金の組み合わせに気付くまで候補を絞れませんでした。形さえ見えれば瞬殺なのかもしれず、素晴らしいです。

■ 101-7 Pontamon 氏作 (正解 3 名)

推理将棋「48 角打まで 12 手」

「48 角打の着手で詰めたって？」  
「同角の手は不成じゃなくて、12 手で仕留めたよ。」

[条件]

- 1) 12 手目の 48 角打で詰み
- 2) 同角の手は不成ではなかった

【解答】

76 歩 34 歩 55 角 同角 36 歩 28 角生  
48 玉 59 飛 38 銀 37 角生 39 玉 48 角打  
まで 12 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	王	王	科	科	皇			一
	飛									二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		三
							歩			四
										五
		歩				歩				六
歩	歩		歩	歩	歩	皇	歩	歩		七
					皇	銀				八
香	桂	銀	金	銀	金	玉	桂	香		九

持駒 なし

【解説】

こちらは攻守が変わって協力自玉詰型の推理将棋。「12 手目 48 角打」によって詰ませよという問題です。詰上りの邪魔をする飛金銀をどう処理するかという主題は前局と同じ。前局では金を取って、その金で飛の利きを遮断するという方法でしたが、本局はもっと凝った手段が使われています。

それは、飛を取って、その飛の利きで金をピン留めして動けなくするというもの。詰上り玉位置や銀の役割は前局と共通（玉の退路封鎖）ですが、飛と金のどちらを取るかは違っており、取られずに残った駒を無効化する手段も異なります。前局と併せて見事な対比ですね。

ただ、残念なことに当初の「12 手目 48 角打まで」という 1 条件だけでは余詰がありました。指摘者は一乗谷酔象氏。手順は以下の通りです。

76 歩 34 歩 38 銀 88 角不成 48 玉 77 角不成  
59 金右 同角不成 39 玉 58 金 16 歩 48 角打まで 12 手

このため 2 つ目の条件を付けざるを得なくなったのですが、当初の修正は「2) 不成は 2 回」の追加でした。この条件設定が甘く、たくぼん氏から次の余詰指摘がありました。

38 銀 34 歩 48 王 77 角生 59 金右 同角生  
39 王 58 金 44 角 同歩 \*\*\* 48 角打 迄 12 手  
(\*\*\* は詰みに影響のない任意の手)

最終的な修正では条件 2) を「同角の手は不成ではなかった」として 59 金を同角生と取る筋

を防いでいます。最終的な修正後の作意解答者からは好評だっただけに、勿体無いですね。

推理将棋は条件を加えていけば、いつかは必ず完全作になるので、条件の少なさは作品価値に直結する重要な要素です。でも、本局に限っては最初に1条件だけで成立させようとしたのが欲張りすぎだったのかもしれませんが。最初から2条件で作ってれば、余詰→修正を繰り返すこともなかったかもしれません。

【短評】

一乗谷酔象さん

初形4枚の効きがある42や48地点はの角打は詰ましがたい。金を入手して41を塞ぐ6番と金に触らない7番の手順の対比がお見事。

はなさかしろうさん

こちらは101-6の蓄積があったのでそれほど悩まず済みました。旧条件の場合、以下の手順のように手の役割分担が101-6と同じでも詰みですね。

やはりここは飛のピンをやりたかったので、ぴったりはまって楽しかったです。

旧条件の余詰筋例：

- ▲3八銀 △3四歩 ▲4八玉 △7七角不成
- ▲5九金右 △同角不成 ▲3九玉 △5八金
- ▲2二角成 △同 銀 ▲\*\*\* △4八角打まで

■ 101-8 変寝夢氏作 (正解7名)

レトロ協力詰 -4+1手

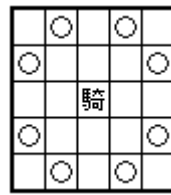
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
							歩	歩	

攻方持駒 なし  
受方持駒 桂騎  
※騎:Knight

【ルール】

•Knight (騎)

チェスの Knight。八方桂。



(○が騎の利き)

•レトロ -m+n 手

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

(補足)

- 3) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 4) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数で逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

11玉(+圭) 24圭=桂 22歩(+23騎) 31騎／

12桂成 まで -4+1手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						騎		王	一
							歩	圭	二
								歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし



(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							騎	王	一
							歩		二
								歩	三
							桂		四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

(出題図への手順)

23 騎 同歩 12 桂成 同玉 まで 4 手

(詰手順) 12 桂成 まで 1 手

【作者のコメント】

騎と桂の連携。騎の只捨てはいけませんね。

【解説】

ある意味、解答者の素直さが試される問題。攻方が駒を捨てれば受方の駒台に載るので、素直に桂と Knight (騎) を捨てる (逆算で盤上に戻す) 手を考えれば良いことになります。

問題は詰型の想定。

騎は強力なので、つい騎を絡めた詰上りを考えたくなります。例えば歩の配置はそのまま、21 圭 33 騎型の詰上りなどは真っ先に浮かぶ形でしょう。しかしこの形から 1 手戻した局面を考えても、桂と騎を両方とも玉に取らせることはできません。騎の機動力が大き過ぎるのです。

桂と騎を両方玉に取らせることを諦め、一方を歩に取らせることにすれば、正解はすぐそこです。素直な頭金 (成桂) が正解なのは、却って意外だったと思います。

念のため付け加えておくと、フェアリー駒は成れると定義していない限り成れません。本局でも騎は成れないので、逆算後の詰手順は 12 桂成に限定されます。変則将棋の八方桂では成ると金の動きが加わるものもあったそうなので、そういう駒を扱う作品の場合は「八方圭」の性能を出題時に明記します。

【短評】

林石さん

何故か玉方の駒 23 歩を動かす手がなかなか見えず。101-9 の後に解けました。

テイエムガンバさん

騎の王手に対し、直後に「同玉」とできないのがポイント。

井上順一さん

受方の持駒 2 枚を盤上に復活させるしかないなので、手が限られる。

たくぼんさん

考えなくなる初形で考えやすい手順。

はなさかしろうさん

これはすんなりで嬉しかったです。

一乗谷酔象さん

狭い方から攻める。ピンポイントの騎の効き。

■ 101-9 変寝夢氏作 (正解 7 名)

レトロ協力詰 -4+1 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							歩	歩	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 銀

※23歩は中立駒

【解答】

22n 歩(+23 全) 33 全 21 玉 23n 歩 /

22 全 まで -4+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							全		二
							歩	歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
						全	歩	歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

(出題図への手順)

22n 歩生 12 玉 23 全 同 n 歩 まで 4 手

(詰手順) 22 全 まで 1 手

【作者のコメント】

中立駒でレトロしてみました。  
先手後手1手ずつ動かしています。

【解説】

歩が行って戻るといふ夢のような手順。

もちろん歩が後ろに戻るといふ反則を使ったわけではなく、中立駒の歩を双方が動かすことにより、「歩のスイッチバック」といふ手順が実現するのです。

でも、歩を往復させたただけだと元の局面に戻

るので意味がありません。本局は「受方の駒台に載っている銀を盤上に戻す」という（レトロとしては）自然な目的のために逆算をすると、ほぼ自動的に歩が往復する仕組みになっています。ですから、解いた後で歩の往復に気づいた解答者も多かったと思います。

本局で難しいのは、歩の扱いよりも銀の扱いです。銀は銀のまま盤上に戻すのではなく、成銀にして盤上に戻さねばなりません。銀は横に動けないので、生銀のまま逆算をすると、逆算が行き詰まってしまうのです。成駒で戻せることはつい忘れがちですが、これはレトロの手筋としてぜひ憶えてください。

なお、中立駒の歩を動かす時、一段目から三段目は攻方にとっては可成地域です。従って逆算図から出題図への手順で解答する時は、初手の「生」を書き忘れないようにしてください。本局だと「生」がなくても後の手順で単なる誤記だと分かるのですが、そうでないケースもあるので、くれぐれもご注意を。

【短評】

林石さん

23n 歩が行ったり来たり。  
生銀にこだわるとはまりそう。

テイエムガンバさん

レトロ協力詰の棋譜の表記方法が正確に理解できておらず、冗長な表記になってしまいました。

☆テイエムガンバさんはレトロ流表記と、逆算図からの表記の両方による解答でした。冗長の方が情報不足より良いので、この結果稿でも両方の表記を使っています。WFP 誌は紙媒体と違ってページ数の制限がないので、筆者も遠慮なく冗長な文章を書いています。

井上順一さん

成銀を盤上に戻すのがポイント。

たくぼんさん

銀は中立駒と勘違いして苦戦。  
普通の銀でしたね。

はなさかしろうさん

n歩の往復で。  
詰み形が本当に詰んでいるのか確認、確認です。

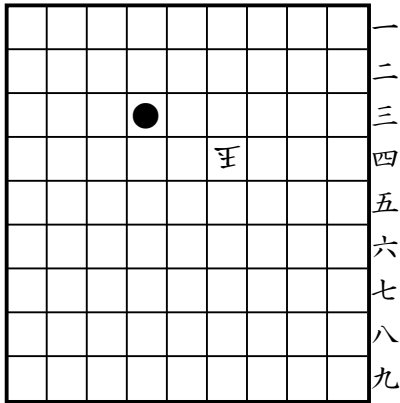
一乗谷酔象さん

銀の置き場に悩む。成銀で解決。

■ 101-10 変寝夢氏作 (正解4名)

リパブリカン協力白玉詰4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 n角  
受方持駒 n香  
※角、香は中立駒  
●:石 (着手不可、不透過)

【ルール】

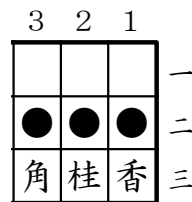
•リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。(補足)

- 4) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 5) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 6) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

•石 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。  
飛び越すことは可能。

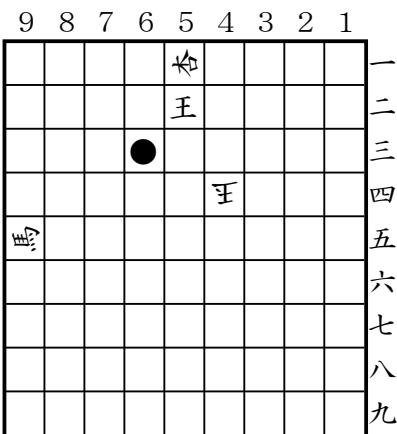


例えば左図で、  
12香や11香成は不可。  
22角や11角は不可。  
11桂成や31桂成は可。

【解答】

77n角 55n香 51n香成 95n角成(+52玉)  
まで4手

(詰上り)



攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

【作者のコメント】

中立駒のみでの詰め上がりです。63は金でもいいけど、余計な情報は追加したくなかった。

【解説】

中立駒でも頭金は強力。盤の端なら頭金それ自体を動かす受けもありません。これは 101-2でも使われた「そもそも王手を解除する動かし方がない」という中立駒の使い方です。

もちろん使用駒に金はありませんから、金は駒を成ることによって作ります。つまり頭金の詰上りさえ想定すれば、角の王手に香合して開き王手、という本局の手順の骨子が判明するわけですね。

しかしなぜ初手 77n角なのでしょう。66n角ではいけないのでしょうか？

仮に初手 66n角だと六段目からの移動なので4手目に角を成ることができません。すると最

終手に対し、51n 角生としてせっかく作った成香を取ることができてしまいます。角を成っておけば、51n 馬は自玉への王手になるので指せません。角を成ることができ、なおかつ 51 に利かすことができる位置は 77 だけ。これが初手の限定打の意味付けだったのです。

63 の配置について作者が言う「余計な情報は追加したくなかった」の意味はよくわかりませんが、もし詰上りをカモフラージュするという意味なら、あまり効果はなかったと思います。解答者の感覚と作者の感覚は必ずしも一致しないので、凝った配置が期待した効果を生み出さなかったり、自然な配置が思わぬ効果を生み出したりすることがよくあります。

【短評】

たくぼんさん

初手の限定打がポイントでしたね。  
両王手を考えすぎました。

はなさかしろうさん

最終手、成って良いのか再確認。中立駒のことを考える時、頭の中がねじれます。

一乗谷酔象さん

香不成の筋かと思ったが玉を置く場所がない。止めの駒が効きを外せないよう1段目の成香で仕留める。気づかなかったが解けてみれば石は大ヒントだった。

■ 101-11 変寝夢氏作 (正解 5 名)

協力自玉スタイルメイト 6 手  
※ヘルプセルフ

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
					馬				二
									三
									四
									五
									六
	王								七
									八
									九

持駒 角2

【ルール】

•ヘルプセルフ

最終手はどんな応手をされても目的を達成できなければならない。

•協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【解答】

32 角 同龍 43 角 97 玉 87 角成 同玉  
まで 6 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
						馬			二
									三
									四
									五
									六
	王								七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

攻方の持駒を増やして、3 手目（先手持駒がなくなったらスタイルメイトの状態）からはそれを消去していく作り方も出来そうです。

【解説】

この初形、持駒なしで 42 龍を 32 龍にすればスタイルメイトです。ですから普通の協力自玉スタイルメイトなら「76 角 同玉 32 角 同龍」で自玉をスタイルメイトにできます。ところが、本局では「ヘルプセルフ」の条件があるために、上記手順の最終手で「同龍」としてくれません。玉が逃げたり、合駒したりして抵抗するのです。

最後の最後で「手のひら返し」をされても、目標を達成できるためにはどうするか？

実世界で現れる交渉事だと、相手がいつ態度を変えるか分かりませんが、これはあくまで詰

将棋。態度を変えるのが最終手だと分かっているので、それを前提に戦略を組み立てることができます。

基本的な戦略は最終手に選択の余地をなくさせること。龍を寄せる手は先にやっておいて選択の余地がある手は先に済ませ、角を馬にして無理やり取らせる手を後に回します。この順番が限定されるおかげで、3手目の角の打場所も限定打になっているわけですね。

角の限定遠打2発は派手ですが、この形からは当然の手なので、難解さはありません。「ヘルプセルフ」入門編といったところでしょうか。

【短評】

たくぼんさん

思ったより普通の手順でちょっと拍子抜け。

はなさかしろうさん

すわ、と身構えましたが…これで良いのでしょうか!?

一乗谷酔象さん

最後に取りのイチを残す。

詰ガエルさん

ヘルプセルフなので手順前後は許されないということですね。

■ 101-12 たくぼん氏作 (正解7名)

安南協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					王	馬			五
		角							六
		飛				飛			七
						角			八
									九

持駒 なし

【ルール】

- 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【解答】

57 飛 46 玉 58 角 まで 3手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						馬			五
						王			六
					飛	飛			七
					角	角			八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

佐々木寛次郎さんに真似て短編安南協力詰2題と、強欲煙1作です。

3手は詰上り面白い形。5手は過去にもある詰上り型ですがやりにくそうな手を作意にしてみました。

【解説】

昨年7月30日にお亡くなりになった佐々木寛次郎氏は短編安南協力詰の愛好家。フェアリーデータベースで検索すると、佐々木氏の「安南ばか詰5手」が50題出てきます。本局と次局はそんな佐々木氏を偲ぶ作品です。

攻方に大駒4枚があるので、いかにも大技が出そうな形ですね。両王手や開き王手、性能変化ルールらしい復活王手の筋を散々読んで苦労した方も多かったと思います。

作意はそんな解答者心理の裏をかく小ぢんまりした手順。飛角で1枚ずつ王手するのですが、せつかく飛の性能になっている角を元に戻してしまうので、やりにくい手だと思います。

この手順の狙いは、玉を金の上に乗せて、詰みやすくすること。飛角4枚が四角に固まった形が珍しく、これだけで一局の価値があります。

本局だけ解いた方は、紛れで散々苦労した分、損したような気分になるかもしれません。でも、

ご安心を。次局でその苦勞は報われます。

玉を何かの駒の上に座らせて、性能變化した玉を詰ませるのは、安南詰の王道展開で、佐々木氏も愛好したパターンでした。

ただ、佐々木氏に限りませんが、安南で玉を弱い駒に変身させて詰ます作品が多いことに筆者は懸念を抱いています。特に超短編では、龍や馬といった、通常の玉より強い玉を詰ます作品がもっと出てきても良いと思います。

【短評】

林石さん

玉を金に座らせれば良さそう、ということで角成は我慢。

変寝夢さん

多重王手の名作（神無太郎氏作 1990年9月詰パラ安南協力詰5手）と対照的なもどかしさ。もちろん良い意味で。

☆変寝夢さんのコメントで言及されているのは以下の作品です。詰上りは（変身した物を含めて）角4枚！角2枚の両王手も性能變化ルールならではの。

【参考】

神無太郎

安南ばか詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
			飛						三
						歩			四
					王				五
						飛			六
			歩						七
									八
									九

持駒 角2

(詰将棋パラダイス,1990年9月第3回妖精賞短編部門)

25角 44玉 77角 43玉 76飛 まで5手

テイエムガンバさん

安南協力詰の入門編として良作。

井上順一さん

安南なので初手の可能性が増えるとともに、詰上りが想定しにくくなるので、3手といえども大変。

占魚亭さん

飛角が並んだ詰上りが面白い。

一乗谷酔象さん

金に替えて仕留める。  
大駒 Big 4 の豪華な詰み。

■ 101-13 たくぼん氏作（正解5名）

安南協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			王		駒				五
			角	王					六
		飛			飛				七
						駒			八
					角				九

持駒 なし

【解答】

57 飛右 66 玉 58 角 56 玉 76 角 まで5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			王		駒				五
		角		王					六
		飛		飛					七
						駒			八
									九

持駒 なし

【解説】

前局で散々詰まない紛れを読んではしまった皆さん、お待たせしました。今度こそ大駒の機能を最大に発揮した大技です。

本局の狙いは詰上りを見れば一目瞭然。飛車2枚による両王手です。厳密に言えば、純粹な二枚飛車ではなく、生粋の飛と仮初めの飛(角)による両王手です。十字型の両王手という珍しい形に加え、そこに至る手順にも溜めを作って一気に開放する感触があり、解後感は抜群でしょう。

前局の参考図で神無太郎氏作は、生粋の角と仮初めの角(飛)によるたすき掛け型の両王手なので、これと比べてみるのの一興でしょう。

同種の駒による両王手は安南以外の性能変化ルールでも可能です。代表的な例は対面ルールで登場したこの作品です。

【参考】二枚飛車による両王手

佐々木浩之  
対鮮ばか詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			ス		ス				六
				王					七
			ス		ス				八
									九

持駒 飛2  
(詰将棋パラダイス,1986年7月,余詰)  
17飛 16角 27飛打 26角 54飛 まで5手

「対鮮」は「対面」の当時の名称。両王手の駒がどちらも盤上にない、無仕掛図からのこの両王手は衝撃的でした。

残念ながら当時は機械検討ができず余詰があったのですが、今ならそんなことは起こらないでしょうし、修正も容易です。実は筆者も発表前にこの作を見せて貰っていたので、余詰を見落としたことには責任を感じています。余詰作でも名作であることに変わりはなく、ぜひ憶

えておいて欲しい作品です。

【短評】

変寝夢さん

佐々木浩之氏作の対面十字飛車の名作を思い出しました。56玉 67飛 57飛 58桂のパターンも面白そうですね。

テイエムガンバさん

安南ならではの両王手詰。

占魚亭さん

3手目の途中停車がポイント。

一乗谷酔象さん

金か銀かいずれかの効きに替えるのかと迷ったが、安南ルールは攻めに利用。力を貯めて安南ならではの両王手が強烈。66角が詰みとは関係ないのが盲点。

■ 101-14 たくぼん氏作 (正解5名)

強欲詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					と				一
		翼	王		歩				二
		馬	王			香	歩		三
			王			と			四
飛	王		王	と	と	桂	香		五
飛	ス			と	と	歩		と	六
	ス				金		香	と	七
王		金	歩	歩			角	飛	八
	桂		桂	王	桂	王	と		九

持駒 なし

【ルール】

・強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

95馬 76玉 87金 同玉 86馬 88玉  
98飛 同玉 97馬 89玉 79金 同龍  
同馬 同玉 99飛 68玉 98飛 69玉  
99飛 58玉 59飛 同玉 37角 49玉  
39と 同玉 28角 同玉 18と 同玉



17 と 同玉 19 香 27 玉 37 金 同玉  
 47 と 同玉 57 金 36 玉 46 金 25 玉  
 24 と 同玉 34 と 同玉 45 と上 33 玉  
 44 と左 42 玉 43 桂成 51 玉 52 歩 同全  
 同圭 同玉 53 歩 同全 同と 同玉  
 54 歩 同全 同と 同玉 55 歩 同全  
 同金 同玉 44 銀 同玉 33 銀 同玉  
 22 銀 同玉 11 銀 同玉 12 歩成 まで 77 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
									と
									香

持駒 なし

〔主な変化〕

2 手目 76 玉のところ、  
 ・64 玉は 65 と 同全 同と 同玉 77 桂左  
 同と上 同桂 同龍 66 飛 同玉 77 金 同と  
 同馬 同玉 75 飛 68 玉 79 銀 58 玉 57 金  
 49 玉 39 と まで  
 ・65 玉は 39 角 74 玉 65 と 同全 同と 同玉  
 55 と 寄 76 玉 86 飛 同と 同馬 同玉  
 87 銀 95 玉 86 銀打 94 玉 84 金 まで

【解説】

本局は強欲詰。強欲協力詰ではありません。ですから紛れだけでなく、変化を読む必要があります。

初手は 95 飛・95 馬・73 馬の三択ですが、95 飛と 73 馬の紛れはすぐに切れるので、95 馬はこの一手。次の手は 76 玉ですが、真面目に読むと玉を引く変化で意外と苦労させられるかもしれません。

ここから細かいやり取りで飛を入手すると、しばらくは必然手が続き、舞台は右辺に移りま

す。ここからは変化読みは少なくなり、主に紛れの読みが中心になります。「強欲」という条件は変化を大幅に削ってくれるので、強欲詰を解いていても、強欲協力詰に近い感覚で解けるのです。

右辺から下段に玉を追い込むと、いよいよ本局のクライマックスがやってきます。

〔途中図〕 52 手目 51 玉とした局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				と					二
				と	圭			歩	三
				と	と				四
				と	と				五
					金				六
									七
									八
									香

持駒 歩4

4 筋に攻方の金（成金）が 4 枚、6 筋に成銀が 4 枚。持駒に歩が 4 枚。いかにも何か出てきそうな局面ですね。

実際、ここから 4 手一組で成銀をはがす趣向手順が登場します。そうして銀 4 枚をすべて持駒にした後、気前良く銀を全部捨て、玉を 11 に誘導。12 歩成で急転直下の収束となります。

本局はこの収束からの創作と思われますが、逆算も丁寧で、強欲協力詰の煙詰の創作経験が、協力系でない本局でも活かされています。協力系のみならず、対抗系での煙詰も作者のレポートリーに加わったということで、解答者も楽しみが増えますね。

【短評】

江市滋さん

かしこ詰なのに、ばか詰っぽい追い方が可能なのが、面白いところ。

7 九金から右辺に展開する流れが見えたところで、流れに乗れたと思ったが、5 七金に気がつかず、ちょっと手間取ってしまった。ここが最大のポイントかも知れない。

収束の軽趣向は、分ってはいても、一局のハ

イライトとして楽しめた。

(なお、当然、2手めの変化は読んでません。まあ、6五とで詰むのでしょ、というズルをしています)。

### 占魚亭さん

52歩以降の流れが好きです。

### 一乗谷酔象さん

攻駒が強くて早く詰むかと思ったが、21手目の必然手59飛を見落としていた。

収束、成銀の柱と平行に成桂、と金、金の柱を築いて55玉型を目指す。

### 【総評】

### 変寝夢さん

オール中立駒という設定は面白そうですね。

### たくぼんさん

楽しい作品が多かったです。余詰は残念です。

### 占魚亭さん

今回は時間がなく、あまり解けませんでした。

### はなさかしろうさん

101-5はImitatorでも4手なので・・・と、相当考えましたが解けませんでした。

残念ですが解答発表を楽しみにしています。

☆担当業務用ブログやOnsite Fairy Mateでも告知しましたが、今後WFP作品展では余詰や不詰等、作品自体の不備による出題済作品の差し替えは行いません。本作品展は「正式発表」の場であることを再認識してください。特に機械検討ができない作品は、事前の検討を入念に行ってくださいようお願いします。

以上



☆18日に大阪北部で起こった地震の影響について簡単に報告します。

この地震で筆者の住んでいる高槻市でも震度6弱の揺れがありました。幸い、自宅は棚から物が散乱した程度で、私にも家族にも怪我などはありませんでした。おかげさまで、こうしてWFP作品展の結果稿も提出できました。

地震直後は一時的に停電が起きましたが、これはすぐに復旧。近くで水道管の破損が起こった影響で、一時的に水の供給量が減りましたが、これもその日のうちに復旧しました。ただ、ガスの供給は止まったままで、再開までにはまだ時間が掛かりそうです。

地震当日は家の中や周囲の片付け作業のせいで、少し疲れしました。また、一日中飛び交うヘリコプターの騒音にも悩まされました。防災や医療に必要なヘリは仕方ありませんが、報道のためだけにヘリを飛ばすことは自粛して欲しいものです。

塀の倒壊なども各所で起こっており、近所でも自転車が倒れた壁の下敷きになっていました。



ニュースでは児童が犠牲になった小学校の塀のことが主に報道されていますが、同様の危険は街の各所に存在しています。行政の問題もありますが、こうした自然災害では私達一人一人の備えと心構えも問われます。まだ余震の心配が完全に消えたわけではないので、筆者も気を引き締めたいと思います。

## Fairy of the Forest #55 結果発表

- 2018年03月20日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」
- 2018年05月15日：投稿締切
- 2018年05月20日：出題
- 2018年06月15日：解答締切
- 2018年06月20日：結果発表

### ■ 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)  
(○は全題正解者)

○神無七郎、○たくぼん、○占魚亭

### ■ 55-01 神無太郎 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				桂					四
				王					五
							桂		六
							角		七
						桂			八
									九

持駒 飛桂

47 桂 56 玉 36 飛 45 玉 46 飛 まで5手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				桂					四
				王					五
				飛		桂			六
				桂		角			七
					桂				八
									九

持駒 なし

作者—初形復元の立体曲詰シリーズを作ったのだが、1局(「U」→「U」)だけ飾り駒あり&手数不揃い(しかも受先)を解消できず、どうにもならなかった。で、それを普通の作に仕立て直してみたものだ。名残があるよなあ。

☆ということで、太郎氏から久々の投稿。今回は軽作でしたが、今後の力作も期待します。

占魚亭—飛成までの筋を追いかけたので、少し時間がかかりました。

☆34 龍までの詰上りもちよっとだけ目に映りますね。54 桂はそれらの余詰を防いだ配置です。

七郎—角筋を一度止めてからの両王手は予想通り。でも舞台を作る駒が桂ばかりなので読みにくかったです。

たくぼん—両王手を目指せば辿り着きました。しかし桂の利きは分り難い。

☆3手目の角筋を止める飛打がポイントで、角筋を再び開ける両王手にて詰み上がります。確かに桂の利きが見えにくいですね。

■ 55-02 神無七郎 協力詰 109 手  
(非標準駒数)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 歩33  
受方持駒 なし

38 歩 47 玉 48 歩 同玉 49 歩 同金上  
37 歩 47 玉 48 歩 58 玉 59 歩 同金  
47 歩 同玉 48 歩 37 玉 38 歩 48 玉  
49 歩 同桂成 37 歩 57 玉 58 歩 67 玉  
68 歩 同玉 69 歩 同金上 57 歩 67 玉  
68 歩 78 玉 79 歩 同金 67 歩 同玉  
68 歩 57 玉 58 歩 68 玉 69 歩 同桂成  
57 歩 77 玉 78 歩 87 玉 88 歩 同玉  
89 歩 98 玉 77 歩 88 桂成 99 歩 87 玉  
88 歩 77 玉 78 歩 88 玉 89 歩 同金  
77 歩 同玉 78 歩 67 玉 68 歩 78 玉  
79 歩 同圭 67 歩 同玉 68 歩 57 玉  
58 歩 68 玉 69 歩 同金 57 歩 同玉  
58 歩 47 玉 48 歩 58 玉 59 歩 同圭  
47 歩 同玉 48 歩 37 玉 38 歩 48 玉  
37 歩 28 歩 49 歩 47 玉 48 歩 37 玉  
49 桂 同金 38 歩 同玉 39 歩 29 玉  
19 飛 同玉 17 飛 18 飛 同飛 29 玉  
19 飛打 まで 109 手

(詰上り図)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

作者-WFP29 号の「ギネスに挑戦！持駒最多のばか詰」に投稿した作と同じ素材を用い、駒数制限を外して構成した作です。

☆「ギネスに挑戦……」の作品は、発表号および結果号をご参照ください。飛の開き王手を交えつつ、歩打により金銀（成銀を含む）を翻弄する点は、本局と共通しています。ただし、前記作が規則性よりもパズル色を強調した作りになっているのに対し、本局は駒数制限を外しているせいもあり、趣向色を最大限に強調した構成となっています。

☆攻方 18 飛は受方 19 飛によりピンされているため、収東部を除き、大半は開き王手駒として使用します。さて、その収東部ですが……。

作者一鍵となる手は 92 手目 28 歩合。準備が整う前に 28 歩合をすると詰みません。

☆28 歩合で 18 飛の利きを遮断し、38 玉に 39 歩と打ちたいのですが、そのためには 39 金を 49 にどけておく必要があります。移動させるだけでなく 49 歩でも可能なのですが、48 玉形では継

続手がありません。手を続けるには 37 玉形で 49 桂とするしかなく、そのために桂が必要となります。

☆その桂を取りに行くのが前半部。玉を 98 まで移動させ、96 桂を 88 に成らせてから、それを入手します。ところが、玉を移動させるには八段目の 58 金・78 金や七段目の 57 桂・77 桂が邪魔。よって、これらを移動させます。

たくぼんー12 手目 67 玉として 2 手オーバーの手順に嵌りました。流れとして左に行って右に戻って詰むと思いますよね。途中で戻る順が作意とはやられました。

☆八段目の金を九段目に移動させたとき、その金が七段目の桂成の邪魔になっています。そこで、移動させた金を一路ずらす必要があり、その空き地に桂を移動させます。以上の手順を成立させるために、玉がいったん逆戻りすることになるわけです。

作者ー協力詰では、本局の 3 手目から 5 手目や 13 手目から 15 手目のように、捨てた駒を直後に同じ場所に打つ「打直し」ができますが、その「打直し」が何度も出てくるのが本局の特徴です。

☆49 歩・69 歩・89 歩などが何度も打ち直されるのが印象的です。手数の中 55 手目で桂を入手した後は、玉が 37 に戻っていきます。前半の往路に対し、いわば後半の復路となります。復路の注意点は、九段目の金と成桂をずらしていくところ。最終的には 39 金を 49 にずらす必要があるためです。

占魚亭ー収束に入るための 28 歩の発見に、少々こずりました。

☆28 歩合からやっと収束に入ります。37 玉形にして 49 桂で 39 金を移動させ、38 歩～39 歩、29 玉に、19 飛を取り、飛合を得て、2 枚飛による詰上りとなりました。初形も終形も綺麗です。

【総評】

七郎ー自作を解かなくて良いので今回の解図はあっさり終了。さすがに 1 題だけだと物足りないですね。

☆慢性的な投稿不足、解答不足を如何せん。

たくぼんー投稿するのを失念してました。すいません。

☆ぜひぜひ、お願いします。

## Fairy of the Forest #56 課題発表

---

■ 2018 年 06 月 20 日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」

□ 2018 年 07 月 15 日：投稿締切

□ 2018 年 07 月 20 日：出題

□ 2018 年 08 月 15 日：解答締切

□ 2018 年 08 月 20 日：結果発表

### ■ 課題発表

どこかでスケジュールのずれを正規に戻そうと考えていましたが、そろそろかと……。ただでさえ作品不足の折、募集期間を短縮するのは不安なのですが……。締切にご注意ください。

多くのご投稿をお待ちしております。課題・手数は問いません。

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

---

# WFP サロン

## 593の合法手がある局面

Pontamon

WFP 第 110 号の WFP 作品展の冒頭に載っていた、合法手の最大の局面ですが、ずっと気になっていました。

ようやく、593 手の合法手がある局面を含む、理論的に最短手数だと思う 61 手詰みの推理将棋を作ることができました。

WFP 作品展の第 101 回、102 回と連続して推理将棋の余詰み作を投稿していて、神無七郎さんからは『正式発表する前に、誰か協力者を見つけて事前に解いて貰ったりするなど、「第三者」によるチェック』とのアドバイスをいただきました。私にとっては珍しい長編ですので、余詰チェックをしていただければと思います、読者サロンにてボランティアを募集させていただきます。

主要条件は

・61 手目の局面は 593 種の着手が可能だったが隅の手で詰んだです。

解いてみようという方がおられましたら、[kobe.pontamon@gmail.com](mailto:kobe.pontamon@gmail.com) へ連絡いただければ幸いです。全条件をお送りいたします。

あと、近況ですが、この半年の間に Core i7 8550U 搭載のラップトップの購入や 500GB と 2TB の SSD を購入して、8 年ぶりくらいにパソコン環境のグレードアップをしました。気付いてみると懐が寂しくなっていて、今年の詰将棋全国大会には行けそうにありません。来年は近場の大阪だと思うので、それには参加したいと思っています。

お便り

飯山 修

相変わらず読むだけで解答に参加できず申し訳ありません。

WFP116 号で佐々木さんの記事がありました。その中で作品集のことが述べられているのでメールします。実は佐々木さんが登場 100 回を達成した後、記念作品集を作ってみたくなり加賀さんの羊の詩を補助した EXCEL の PGM を利用して 123 回までの作品集を作り、九州 G の石川さん八尋さんに住所を調べてもらって郵送しました。丁寧な礼状が届き、自分で作品を作るのをあきらめていたのでタナボタだ長く生きてみるもんだと大変喜ばれてました。

7 月の全国大会で加賀さんの作品集の手伝いが 1 段落したので 2014 年以降の作品を加えたものを再作成したくなり今回作ってみました。添付の EXCEL ファイルを両面印刷すると本になります。出来たばかりなので不具合があるかもしれませんがご容赦下さい。全国大会で九州 G のメンバーに配布しようと思っています。

★私に作品集を EXCEL ファイルで送っていただきました。全 150 作。今回私も初耳だったのは、「登場 1 回」の作品は、フェアリー作品ではなく「将棋駒模様」というパズルであったという話。全作品が纏められて佐々木さんも喜ばれていることでしょうね。ご覧になりたい方は、飯山さんに連絡を取られてみてはいかがでしょうか？



10周年記念募集中！安南詰最長手数作品

先月号で募集を募りました「安南詰最長手数作品」ですが、締切まではまだ1ヶ月ありますが、いまだ投稿はありません。今回は過去の作品を振り返って作者皆様のやる気を刺激しておこうと思います(笑) まずは現在の最長手数作品です。

出口信男／カピタン／1981年6月／完全安南詰 53手

	科	科	科	科		王				
歩	と	と	と	と	と		と			
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
		歩				ス	進	銀		
								ス		
					角		飛			

持駒 なし

41と 同玉 51と 同玉 61と 同玉 71と 同玉  
 81と 同玉 91歩成 71玉 72桂 61玉  
 62桂 51玉 52桂 41玉 42桂 31玉 21と 同玉  
 24飛 同と引 31飛 同玉 14角 同と  
 41桂成 同玉 51桂成 同玉 61桂成 同玉  
 71桂成 51玉 61圭 同玉 84角 51玉  
 72歩成 41玉 51角成 同玉 62歩成 41玉  
 52歩成 31玉 42歩成 21玉 32歩成 11玉  
 22歩成 まで 53手

玉が一段目を2往復する趣向作です。王頭に桂を4連打するなど安南らしさも満載です。

それにしても53手が最長とは短いと思いませんか？実はそれより長い手数で発表された作品もありました。

橋本孝治／詰パラ／1985年2月／早詰

安南詰 95手

				皇	歩					
		科		皇	ス	ス	ス	進		
		ス	皇	ス		ス	ス	ス		
			歩	王		進		銀		
				角					ス	
				銀		銀	香			
		ス								
				ス						

持駒 歩3

45歩 同飛 同銀 同玉 46飛 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 33桂成 同と寄 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 33桂成 同と左上 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 33桂成 同と左上 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 33桂成 同と上 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 44玉 45歩 43玉 33桂成 同と左 46飛 44桂 同歩 54玉 47桂 45玉 35桂 54玉 56飛 64玉 65歩 同歩 75銀 同歩 66飛 迄 95手

出口作より4年後に発表された橋本さんの趣向作は95手で大幅に記録更新！のはずでしたが惜しくも作意19手目より44桂打 同と 同歩 同玉 46飛 54玉 44飛 迄 25手(歩余り)の早詰あり。

作意が桂合から桂打ち～2段活用でと金を消去していくという素晴らしい内容で早詰は残念でした。

続いて登場したのは、その年の8ヵ月後で再び橋本さんです。

橋本孝治／詰パラ／1985年10月／早詰

安南詰 77手


持駒 歩4

16歩 14玉 15歩 26玉 37角 16玉 28角  
 15玉 16歩 14玉 15歩 26玉 37歩 同と 同  
 角 16玉 28角 15玉 16歩 14玉 15歩 26玉  
 37歩 同歩 同角 16玉 28角 15玉 16歩 14  
 玉 15歩 26玉 37歩 同香成 同角 16玉 28  
 角 26玉 37香 同香成 同角 16玉 28角 16  
 玉 17香 16香 同香 26玉 37香 同香成 同角  
 16玉 28角 16玉 17香 16香 同香 26玉  
 37香 同香成 同角 16玉 28角 16玉 17香  
 16香 同香 26玉 37香 同桂成 同角 16玉  
 28桂 17玉 28銀 16玉 18銀 迄 77手

本作も惜しくも13手目より46角として以下28角を馬にする順が成立して27手(駒余り)の早詰でした。しかし攻方55歩1枚置けば(勿論もっとスマートな方法があると思いますが)この早詰は解消していると思われるので77手は応募の最低ラインになるでしょうね。

その約2年後に出口作と同手数ですが佐藤達也さんが趣向作を発表されています。

佐藤達也／詰パラ／1987年3月／早詰

安南詰 53手


持駒 飛角銀

25銀 同と 13角 同玉 25桂 12玉 24歩 同玉  
 26飛 13玉 46飛 12玉 24歩 同玉 26飛  
 13玉 56飛 12玉 24歩 同玉 26飛 13玉 6  
 6飛 12玉 24歩 同玉 26飛 13玉 76飛 12  
 玉 24歩 同玉 26飛 13玉 86飛 12玉 24歩  
 同玉 26飛 13玉 96飛 12玉 23銀成 同桂  
 13香 21玉 33桂生 同桂 31銀成 同玉 91飛  
 成 32玉 41龍 迄 53手

こちらも連取り趣向で楽しい作品でしたが、何と33銀生 同桂 35銀 同玉 38飛 37と 同飛 36合 24角 迄 9手の早詰がありました。初手33銀打からも9手で詰みます。

安南趣向作は、何か呪われているのでしょうか(笑) 出口作からすでに37年が経ちました。さすがにこれではいけません。是非皆さん立ち上がって安南詰最長手数に挑戦してください。幸い fmza64 にて検討は可能ですので昔に比べると不完全の確率は低くなっていると思います。皆さんのチャレンジをよろしくお願い致します！

投稿先は、WFP 編集部までお願いします。

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

**2018年7月15日(日)**

### 第100回 WFP 作品展 解答延長

フェアリー作品 3題

**2018年8月15日(水)**

### 第102回 WFP 作品展

フェアリー作品 14題

## 作品募集締切一覧

### WFP10周年記念

安南詰の長手数作品を募集します。大野孝氏の作品集にも記載がありますが現在の安南詰の最長手数は出口信男作の53手です。これは余りにも短すぎると思いますので、この手数を越える作品を募集します。

- ・標準駒数での安南詰（協力詰ではありません）
- ・双玉可
- ・手数は55手以上
- ・投稿先はたくぼんまで  
(takuji@dokidoki.ne.jp)
- ・投稿締切は2018年7月15日

### Fairy of the Forest #56

- ・協力詰（自由課題）
- ・投稿締切：平成30年7月15日（日）
- ・投稿先：酒井博久 sakai8kyuu@hotmail.com  
(詳細はP36をご覧ください)

## あとがき

昨年、安南詰将棋でお馴染みの大野孝さんから1冊の作品集を頂いた。

「安南詰将棋作品集（詰将棋ひとりごと 曲江）」

内容は大野孝氏の安南詰将棋作品126題と磯田征一氏による安南将棋・安南詰将棋の歴史等と安南詰将棋に対する愛が溢れ出た1冊です。

今回の安南詰の最長手数作品募集企画は、この作品集を読んでいて思いついたものです。安南詰にはまだまだ面白い手順、手筋が間違いなく眠っていると思いました。

では作品集の中の1作を紹介しましょう。

大野孝作（作者18歳の時の作品）

近代将棋読者欄掲載

安南詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	王		一
						歩	歩		二
							銀		三
							角		四
							馬		五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀2

プロの先生があと3手から15分考えた作品とのこと。さあ皆さん解けましたか？

2018年 第120号

### Web Fairy Paradise

非売品

平成三十年六月号

平成三十年六月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp